

学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

1 会議名 羽島高等学校 学校運営協議会 (第3回)

2 開催日時 令和8年1月23日(金) 13:00～

※大雪のため、書面開催とした。郵送にて資料を確認していただき、「本校への提言」としてご意見をいただいた。

3 委員 会長 兼松 博之 中部学院大学専任講師
副会長 大竹 恵子 国際ソロプチミスト羽島会長
委員 高橋 浩之 竹鼻中学校長
山田 昌子 本校育友会副会長
渡邊 早示子 羽島の未来を築く会理事
渡辺 憲治 羽島商工会議所専務理事兼事務局長
渡邊 丈展 本校同窓会長

4 「本校への提言」等

意見1: 校舎が新しくなり環境が変化したことが、子どもたちの成長を後押しする一因になっている。しかし、授業内容の工夫や子どもたちの表情の変化を見ると、それ以上に先生方の粘り強い指導の積み重ねが大きな力になっていると感じる。

意見2: 「基礎学習力の強化」として授業の理解度を上げるために、入学直後に中学校レベルの基礎学習の復習を行うことも必要ではないか。

⇒ 基礎学力の定着については選択科目にも設定しており継続的に指導している。

意見3: 進路希望に応じた選択授業や少人数での授業により、生徒がより理解しやすい指導体制が整っている。また、週末課題や補充学習など、生徒が自ら意欲的に取り組めるような支援や評価の工夫もなされている。

意見4: 各種検定試験の合格者が増えており、生徒の意欲が見られる。科目選択する目的の明確化や、理解力を高めるために一層の指導方法の工夫を継続してほしい。

意見5: 大学でも BYOD が主流となり、「使える」だけでなく、いかに「使いこなす」かという発想力が求められる時代になっている。AI についても同様であり、先生方はその対応に苦慮している部分もあると思う。しかし今後は、AI を正しく理解し、誤った使い方をしない“使いこなせる人材”が求められていくはずである。そのためには、人と AI との「対話」の在り方がますます重要になると考える。

意見6: 「SNS 等ネットの危機管理能力の強化」について、使い方を誤るととても危険であるためしっかりと指導してほしい。

⇒ 生徒に対して継続的に注意喚起し、外部講師による講話などの研修も行っている。

- 意見7： 挨拶をよくしてくれる生徒が多く、遅刻も減少傾向にあり、先生方の地道な指導の成果が表れている。また、自転車通学では危険な場面を見かけることもあるため、命を守るためにもマナー向上を期待したい。
- 意見8： 自転車のヘルメット着用率を上げるため、中学校と高等学校が協力して呼び掛けていきたい。
⇒ 高校生は、令和8年4月から導入の交通反則通告制度の対象にもなるため、継続的に注意喚起している。
- 意見9： 学業はもちろん、社会に出てからは多様な経験が求められる。そのため、多くの経験ができる環境を整えていることは大変素晴らしい。
- 意見10： 「社会的マナーの修得」について、部活動は競技や文化を楽しむだけでなく、集団生活のルールを学ぶ場でもある。卒業後、社会に出ても恥ずかしくないマナーを部活動で身に付けてほしい。
- 意見11： 生徒会やSクラブなどによる活発なボランティア活動は、地域にとって最も分かりやすい羽島高等学校の「CM」となっている。活動内容を自ら企画、運営できるようになってきていることを大変うれしく思う。今後は、地域からの依頼に応えるだけでなく、自ら課題を見つけ、解決に向けた活動を工夫していくことをさらに期待したい。この力は、将来社会で確実に役立つはずである。

5 会議のまとめ

- ・第3回学校運営協議会は大雪の影響により書面開催となったが、資料をご覧いただき、「本校の取り組み」や「自己評価・学校関係者評価」について、多くの肯定的なご意見や教育活動を高く評価する声をいただいた。
- ・いただいた多様な視点のご意見を踏まえ、改善が必要な点には速やかに対応し、今後の学校運営に活かしていきたい。